

「若狭の自然の中で 青空教室＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
一	一	20	20 (愛知県東海市)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然の中で心身をリフレッシュするとともに、参加者同士や参加者とボランティアの交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- ・課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

2014年9月13日（土）～ 2014年9月15日（月） 2泊3日

◆連携機関 東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆参加者分析

- ・東海市適応指導教室（ほっと東海）に参加している児童・生徒および適応指導教室（ほっと東海）スタッフの計47名が参加。
- ・児童・生徒は所属教室ごとのまとまりが2教室あるが、東海市内の小中学校で保健室登校をしている児童・生徒の参加を含め、全体が顔を合わせるのは今回が初めてであり、実質的に別個の3グループからなる。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	入浴	就寝
九月十三日 (土)		東海市 出発		はじまりのつどい		昼食		グアイスブレーキン	施設見学等	・浜遊び (海とふれあう)		夕食	自由時間		・ボランティアたち との語らい①	・選択内容最終決定 ・夕日を眺める①	ゆつたりタイム	
九月十四日 (日)	朝のつどい	朝食 清掃	選択活動① (海に親しむ) ・磯観察 ・シーカヤック ・磯釣り	・スノーケリング ・ラントリント② ・スノーケリング	昼食		選択活動② ・カッターハイキング	・浜辺を歩く③ ・海を感じる			夕食	自由時間		・ボランティアたち との語らい②	ゆつたりタイム	入浴	就寝	
九月十五日 (月)	朝のつどい	朝食 清掃	選択活動③ (海とともに) ・シーカヤック ・スノーケリング	・スノーケリング ・シエルフランツ ・スタンドアルブ等	昼食	おわりのつどい	自然の家 世久見到着			東海市 着								

- ・予めにパッケージされたプログラムを消化するのではなく、参加者個人が興味・関心を元に「自分で決めた」内容に取り組むことで自己決定能力、責任能力を育むことを目的に、選択プログラムを中心に日程構成を行った。

- ・参加者の普段の生活で海との関わりが薄いことより、臨海型施設の特徴を最大限に活かし海のプログラムを中心とした活動を実施した。

◆運営のポイント

- ・日常生活で基本的生活習慣を確固に確立していない子どもが見られることから、集団生活における基本姿勢は重視しつつも、ゆとりのある内容展開を持って参加者各人の負担が過大にならないように配慮した。
- ・施設到着後より海を感じることのできるスロー系のプログラムからスタートさせ、段階をおってアクティブ的プログラムへと移行し、児童・生徒の体力的・心理的なペース配分を考慮したプログラム構成とした。
- ・ボランティアと参加者が「1対1」の関わりをもつことが出来るように配置を考え、個々の状況や到達度を共有出来るように打合せを密にした。

◆安全管理のポイント

- ・ボランティアに対し、事前に講習を実施し、適切に人間関係を築けるように配置し、安心して活動できる配慮を行った。
- ・水辺活動については余裕を持ったスタッフ配置と入念な事前指導を行った。
- ・時間にゆとりをもってプログラムを立て、参加者達の準備をしっかりと取ることにより、安心して活動に参加できるように配慮した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	70%	30%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	70%	30%	5%	0%
この事業の運営はどうでしたか	67%	29%	4%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・とてもよかったです。来年もまた参加したい。
- ・沢山海に触れることができた。
- ・ずっと楽しくて、一晩中寝られなかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・本事業が、子どもたちにかなり認知され、本施設での自己目標が明確になってきている。また今年度は海だけでなくハイキングやクラフトなどへ活動が広がり、複数回参加することによる心情面での落ち着きや視野の広がりが安心した生活へと結びつき、より効果的な事業となっていることが伺える。
- ・ボランティアを「1対1」配置することで、子どもの微妙な変容や心情を適切に捕まえ、支援し、全体で共有することができた。また、東海市側からボランティアに対してもその子どもに応じた到達目標が明示されたことにより、ボランティア自身も子どもへの接し方を工夫し、自己評価しながら活動を進めることができた。またそのことが自らの自信となり、事後反省において積極的に意見を出すことができるようになった。
- ・スタンドアップパドルの導入、思いっきり身体を動かす関わりなど、これまでにない活動を取り入れることにより、若狭湾の活動にも新鮮みが生まれ、活動意欲の高まりにつながった。
- ・2泊3日の実施ができたことで、東海市にとっても満足のいく結果となった。特にIKRでの事後評価において、明確な伸びが伺える。

（2）課題

- ・C T活動における不満が子どもたちから多い。「しんどかった」「酔った」など。事前に乗る乗らないの選択をする時間を十分に確保しただけに、乗艇を選んだ子どもたちへの満足につながっていないことが課題である。
- ・活動の発展性が乏しくなってきたため、今後の方針として新たな団体への成果の発信と支援実施に向けての働きかけをより積極的に行い、さらに検証を進めることが求められている。特に本年度は本施設を利用する団体に紹介したが、その団体独自の課題があることも事実である。その調整を進めることが早急の課題である。

5. 活動の様子

